

(7) 銅製水瓶について

飯島義雄

台脚部内面の灰白色の非金属質で「漆喰」状の物質は、「法隆寺献納宝物」中の銅製水瓶における、「外型土が鋳造後、除去されずに残ったもの」(東京国立博物館 1993、法251)とされた物質と同質のものと推定される。個体間を越えて共通の状況が存在することから、共通した製作技法の結果としての類似性と想定される。つまり、いわゆる「真土型鋳造法」による外型の一部と考えられるのである。そして、胴部は基本的に中空状態であり鋳造後は中型は粉碎されるものでなくてはならず、その素材も「真土」であることを推定させる。つまり、胴部内面に遺存する暗褐色ないし赤褐色の粘土状の薄層の内、胴中央部に遺存する暗褐色の粘土状の薄層は、中型の「真土」の残存物の可能性がある。

さらに、本資料は本体の頸部・胴部・台脚部は一鋳であり、中型と外型が「真土」であり、外型が割型でなければ、鋳型は蠟型法であるものと推定される。つまり、「真土」で成形された中型に蠟を塗布した原型を、やはり「真土」で包み、その後熱を加えて脱蠟することにより鋳型が製作されたのである。そして、底面の小孔は台脚部内面の中心からややすれられているが、頸部の直下にある。こうした状況は「法隆寺献納宝物」中の上記の銅水瓶にも認められる。これは、前述の製作技法との関連で考えれば、中型の固定の方法に係わる可能性がある。つまり、台脚部から頸部まで棒状の軸が貫き、それにより中型と外型が固定され、鋳込む空間が確実に確保されたものと推定される。さらに本小孔を貫く軸は、鋳造後の輶轄挽きの際の回転軸としても活用されたに違いない。

蓋は舌のついた笠状の部分とその舌に固定されたピンセット状の部分からなる。笠の部分には輶轄挽きの痕跡が認められ、本体と同様に「真土型鋳造法」で蠟型法による鋳型の製作が想定される。一方、ピンセット状部分はその端部の一部に盛り上がりが認められることから、鍛造であるかもしれない。

ところで、日本における古墳出土の類例は静岡県中石田古墳（静岡県 1930）で知られるが、頸部のみの遺存であり、その口縁部の形状も本資料とは異なり、良好な比較資料とはならない。現状で類例を中国に求めれば、形態上において類似性の強い資料は、河北省封氏墓群（5世紀後半～6世紀後半、張 1957）、河北省高氏墓（524年、河北省博物館文物管理處 1972）、河北省李希宗墓（544年、石家庄地区革命委員会文化局文物発掘組 1977）、山西省庫狄廻洛墓（562年、王 1979）、陝西省王德衡墓（581年、員 1993）などの中国南北朝期の6世紀代を中心とした墳墓からの出土例である。それらはいずれも墳墓への副葬用のいわゆる明器であり、高さを見ると觀音山古墳出土例の31.3cmと比較して、庫狄廻洛墓出土例18.2cm、王德衡墓出土例4.5cmなどと小形である。また、庫狄廻洛墓出土例のように鍍金されている例もある。そのため、こうした中国の墳墓出土の水瓶と觀音山古墳出土のそれを直接対比することには問題がある。また、唐代の陝西省慶山寺塔跡（741年、臨潼県博物館 1985）の出土例とは台脚部の端部の形状等に大きな差違がある。類例が少なく確定的なことは論じられないが、現状では本資料は中国における6世紀代の銅製水瓶と関連が深いものと考えておきたい。また、本資料などの銅製水瓶は、山西省庫狄廻洛墓における共伴資料や南北朝期に造営されたとされる中国山西省雲崗石窟の像に表現されている状況（雲崗石窟文物保管所 1991・1994）を見ると、遅くとも6世紀代には「仏・菩薩の莊嚴関係品」（阪田 1994）であったと考えられよう。

引用参考文献（年代順）

- 静岡県 1930 駿東部及沼津市の遺跡『静岡県史』1
 張 李 1957 河北景縣封氏墓群調査記『考古通訊』1957-3 pp. 28~37
 河北省博物館文物管理處 1972 河北曲陽発現北魏墓『考古』1972-5 pp.33~35
 石家庄地区革命委員会文化局文物発掘組 1977 河北贊皇東魏李希宗墓『考古』1977-6 pp.382~390
 王 克林 1979 北齊庫狄廻洛墓『考古学報』1979-3 pp.377~402
 臨潼県博物館 1985 臨潼唐慶山寺舍利塔基精室清理記『文博』1985年第5期 pp.12~37

2. 遺物に関する考察

- 雲崗石窟文物保管所 1991 『中国石窟 雲崗石窟一』
毛利光俊彦 1991 青銅製容器・ガラス容器『古墳時代の研究』
第8巻 古墳II 副葬品 2副葬品の種類と編年 pp.189~205
員 安志編著 1993 『中国北周珍貴文物』
東京国立博物館 1993 『法隆寺献納宝物特別調査概報XIII 水瓶』
平尾良光 1993 法隆寺献納宝物 水瓶の蛍光X線分析法による
材質の調査『法隆寺献納宝物特別調査概報XIII 水瓶』pp.26~32
松本伸之 1993 法隆寺献納宝物の水瓶について『法隆寺献納宝
物特別調査概報XIII 水瓶』pp.82~99
雲崗石窟文物保管所 1994 『中国石窟 雲崗石窟二』
阪田宗彦 1994 法隆寺の仏教工芸品『法隆寺昭和資財帳完成記
念 国宝法隆寺展』pp.264~270
平尾良光・山岸良二・戸津圭之介他 1998 『文化財を探る科学
の眼 3 青銅鏡・銅鐸・鉄劍を探る 鉛同位体比、鋸造実験、
X線透過写真』
東京国立博物館・NHK・NHKプロモーション 1998 『宮廷
の栄華 唐の女帝・則天武后とその時代展』